

第1章

まちなか再生方針とは

- (1) 策定目的
- (2) 位置づけ
- (3) 本庄駅北口周辺整備の必要性

(1)策定目的

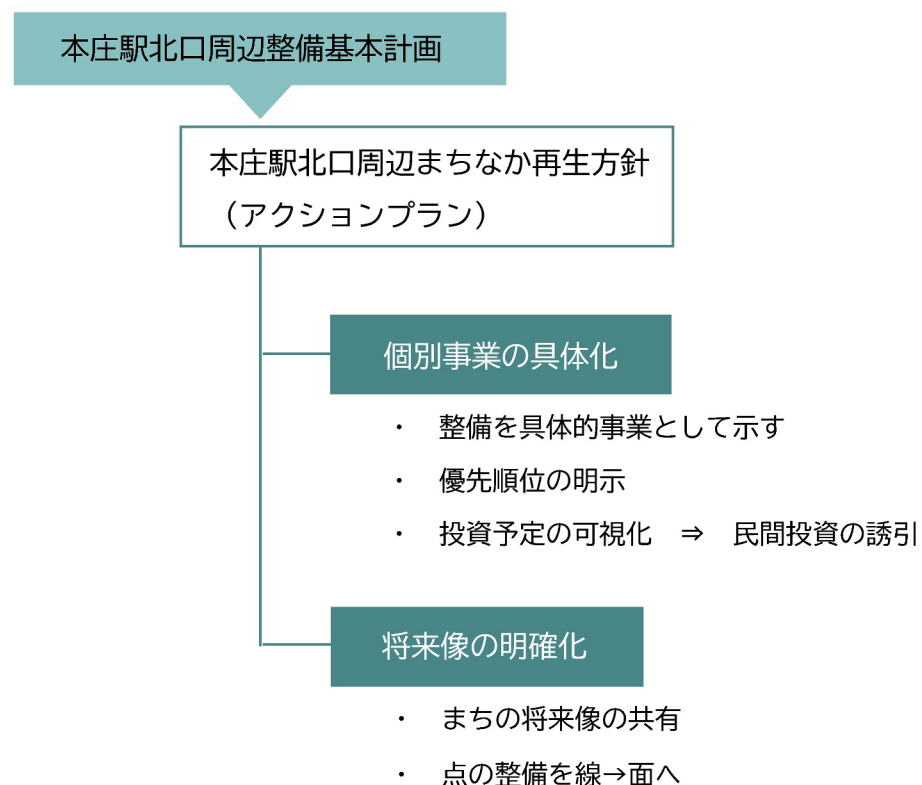
本市では、本庄駅北口周辺（以下「本地区」という。）のまちなか再生を目指し、令和4年1月に「本庄駅北口周辺整備基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定しました。基本計画では、「まちに暮らし、まちを活かし、まちが息づく」をまちづくりのコンセプトとして掲げ、駅前街区及び道路の整備方針や整備計画を定めています。

「本庄駅北口周辺まちなか再生方針」（以下「まちなか再生方針」という。）は、基本計画策定以降の各取組の進捗状況や課題を再度整理し、基本計画で示す将来像の解像度を高め、実現に向けた具体的なアクションを設定するために策定するものです。行政と民間がまちの将来像を共有し、それぞれの立場や強みを活かして、連携しながら取組を推進します。また、市が実施する事業の優先順位を明示することで、民間投資を誘引し、官民で相乗効果を生む効果的なまちづくりに取り組みます。

駅や利便施設が集まり多くの人が行き交うポテンシャルを活かし、まちなかを通過するのみならず、滞在や回遊を促し、日常の豊かさが積み重なる生活空間への転換を目指します。

(2)位置づけ

まちなか再生方針は、基本計画に示した内容を具体化するものであり、基本計画のアクションプラン（実行計画）として位置づけます。整備を具体的事業として示すことに加え、優先順位を明示することで民間投資の誘引を図ります。また、まちの将来像を明確化し、点的な整備を線・面へとつなげ、エリア全体として一体的なまちづくりを推進します。



(3)本庄駅北口周辺整備の必要性

本地区には、宿場町や繭の集散地としての興隆を示す建造物が残り、本庄まつりでは山車が曳行されるなど、本庄のアイデンティティを象徴する場所となっています。しかし、近年は、少子高齢化や人口減少、空き家の増加、人々の交流機会の希薄化などにより、地域の魅力や活力の低下が特に進むエリアとなっています。歴史的資源や祭礼文化の多くが本地区に集まることを踏まえると、このまま衰退が進めば「本庄らしさ」そのものの継承が困難になり、人々が築いてきたアイデンティティが失われてしまう恐れがあります。

その一方で、本地区は、駅に近く通勤・通学に便利で、行政・商業機能の集積、まちづくりに参画する人・団体の存在など、市内でも高いポテンシャルを秘めたエリアでもあります。エリアのポテンシャルを活かしながら、暮らしの場としての質の向上や民間活動がしやすい環境整備につなげるためには、道路環境や公共空間等を改善する、効果的な投資が求められます。

本庄のアイデンティティを継承し、ポテンシャルをまちの力へ転換するためには、本地区の再整備を進め、「選ばれる北口」へと更新していくことが必要となります。

